

欧州景気概況(2021年6月)

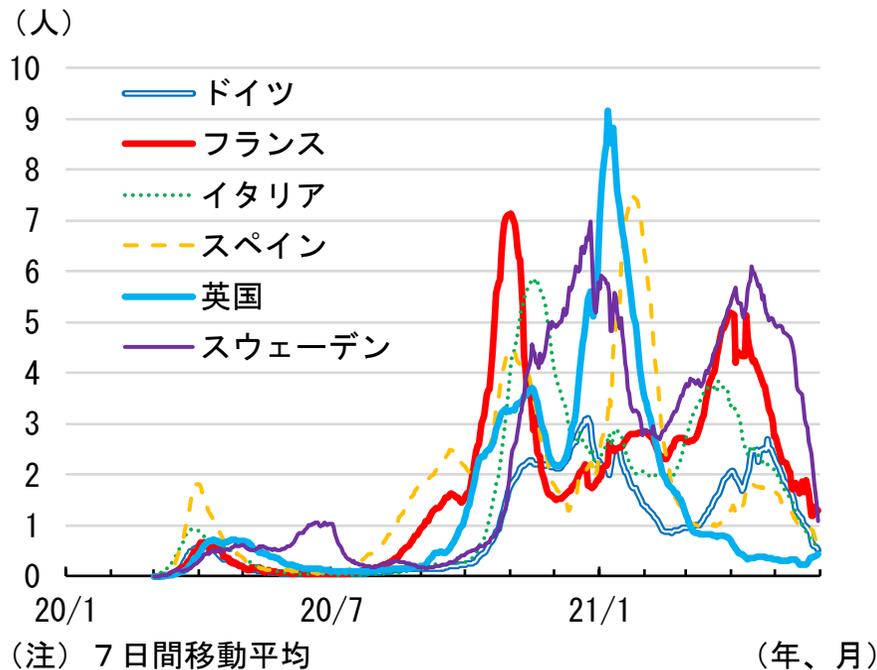
2021年6月2日

調査部 副主任研究員 土田陽介

新型コロナウイルスの感染状況

欧州では新型コロナウイルスの感染者数が順調に減少しており、こうした状況を受けて、各国政府は行動制限の段階的な緩和を模索している。欧州連合(EU)は夏季のバカンスに備え6月1日に「ワクチンパスポート」システムの稼働を開始、7月1日に全面稼働予定。一方、ワクチン接種で先行する英国でも変異種が流行、わずかに感染者が増え始めた。

人口一万人当たりの新規感染者数



(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)及び英国国民保健サービス(NHS)、国際保健機関(WHO)

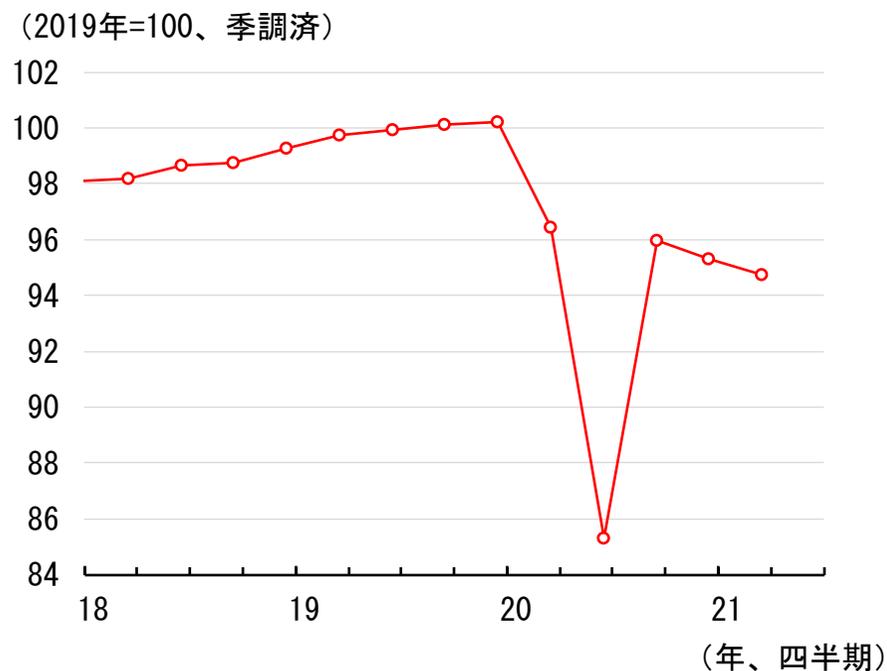
主要国の行動制限の概要

国名	内容
ドイツ	過去7日間の人口10万人あたりの新規感染者数が5日連続で100人を下回った場合、非常ブレーキ措置(娯楽施設の閉鎖、飲食店の店内での飲食禁止、観光目的での宿泊禁止など)を解除する方針。
フランス	6月末の正常化を目指し5/24から全成人対象にワクチン接種がスタート。5/9にカフェや映画館、美術館が約半年ぶりに営業を再開。夜間外出禁止の開始時刻も19時から21時に変更。衣料品店など生活必需品以外を扱う小売店も営業を再開。
イタリア	5/17に夜間外出禁止の開始時間を21時から22時に変更。6/7には24時以降とし、6/21日には全面解除の方針。5/24にジム営業を再開。6/1に飲食店の店内利用を解禁。
英国	5/17に段階的緩和のステップ3に移行(飲食店の店内利用、宿泊施設の再開、世帯間交流の緩和、渡航の解禁など)、ステップ4では1メートル強の社会的距離ルール廃止を予定し、経済活動正常化へ(6/21)。

ユーロ圏景気概況① 景気は悪化している

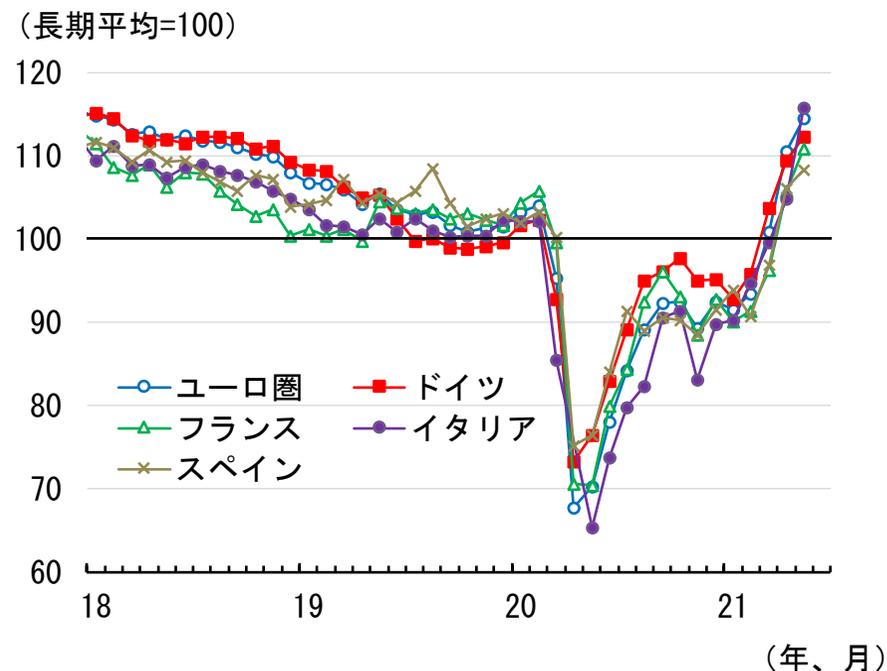
ユーロ圏の2021年1-3月期の実質GDP(速報値)は前期比-0.6%と2期連続でマイナス成長となり、景気後退に陥った。一方で最新5月の景況感指数は114.5と4ヶ月連続で上昇、輸出にけん引された製造業の景況感の改善が頭打ちとなったが、反面で行動制限の緩和を受けて非製造業の景況感や消費者心理の改善が急速に進んだ。

実質GDP



(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)

景況感指数



(出所) 欧州委員会ECFIN

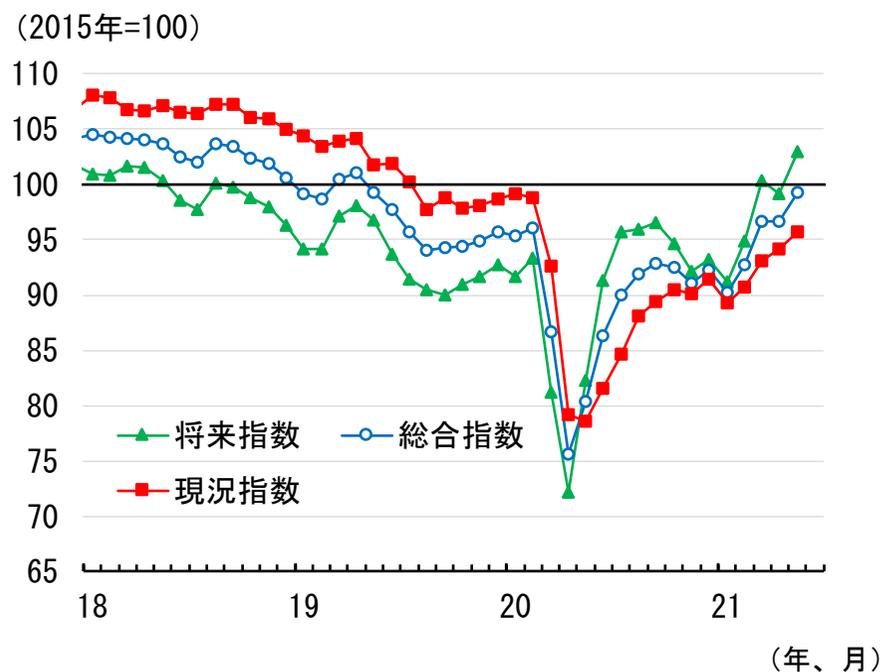
ユーロ圏景気概況② 生産は頭打ち

ユーロ圏の3月の鉱工業生産は前月比+0.1%と再び増加したが、均した動きは頭打ちとなっている。行動制限の強化を受け内需向けの生産が低迷し、さらに米中向け輸出にけん引された外需向けの生産も一服した模様。またドイツの5月のIfo景況感指数は99.2と上昇が続いた。現況指数の上昇が続き、将来指数も上昇に転じた。

鉱工業生産



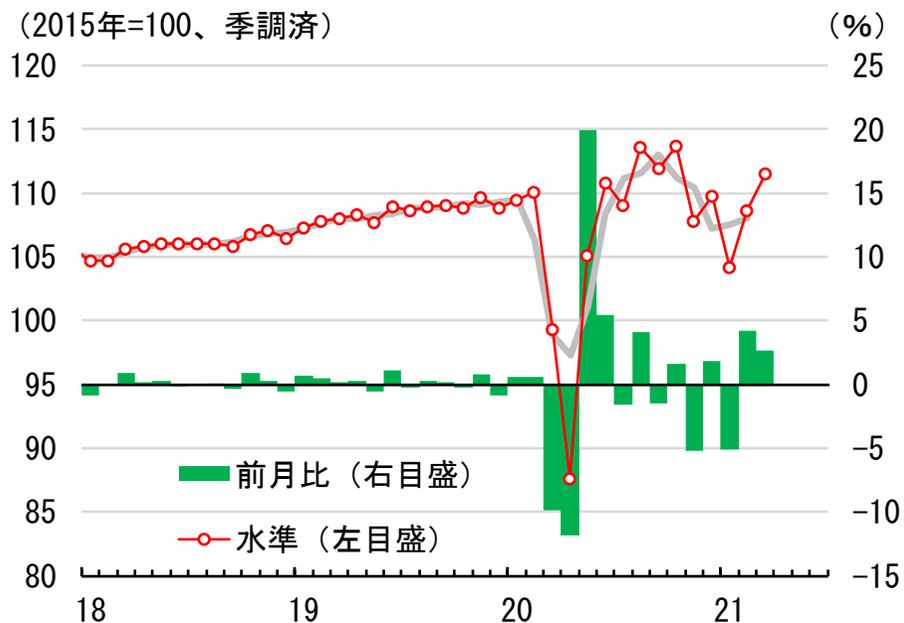
Ifo企業景況感指数



ユーロ圏景気概況③ 消費は悪化している

ユーロ圏の3月の小売数量は前月比+2.7%と2月(同+4.2%)から増勢が鈍化したものの、均した動きは底打ちした。一方で4月の新車販売台数は前月比-0.4%の年率838万台と、低迷が続く。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う行動制限の強化を受けて、個人消費は悪化を余儀なくされている模様。

小売数量



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均

(出所) ユーロスタット

新車販売台数



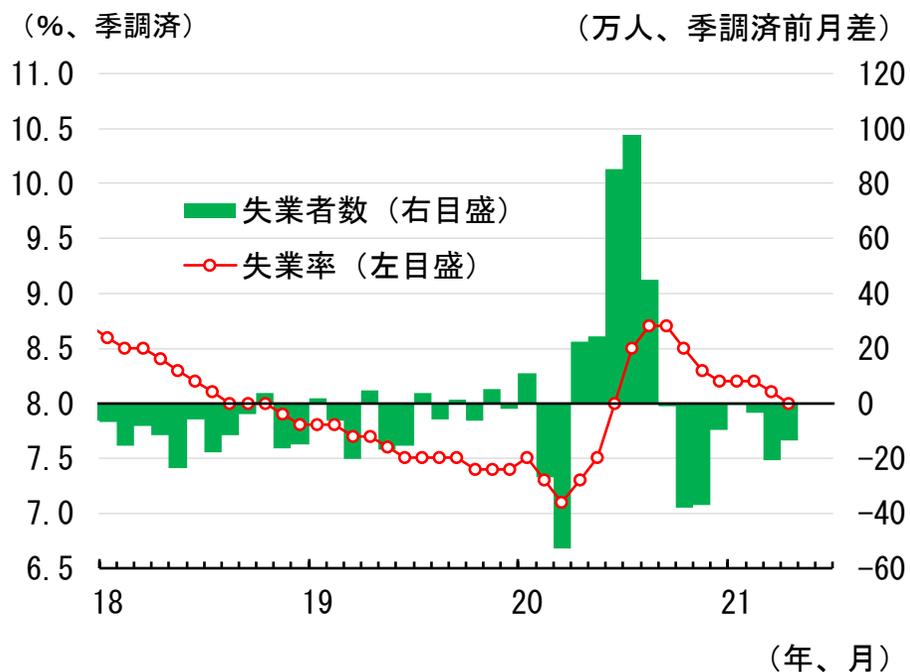
(注) 灰色線は3ヶ月移動平均

(出所) 欧州中央銀行 (ECB)

ユーロ圏景気概況④ 雇用情勢は緩やかに回復

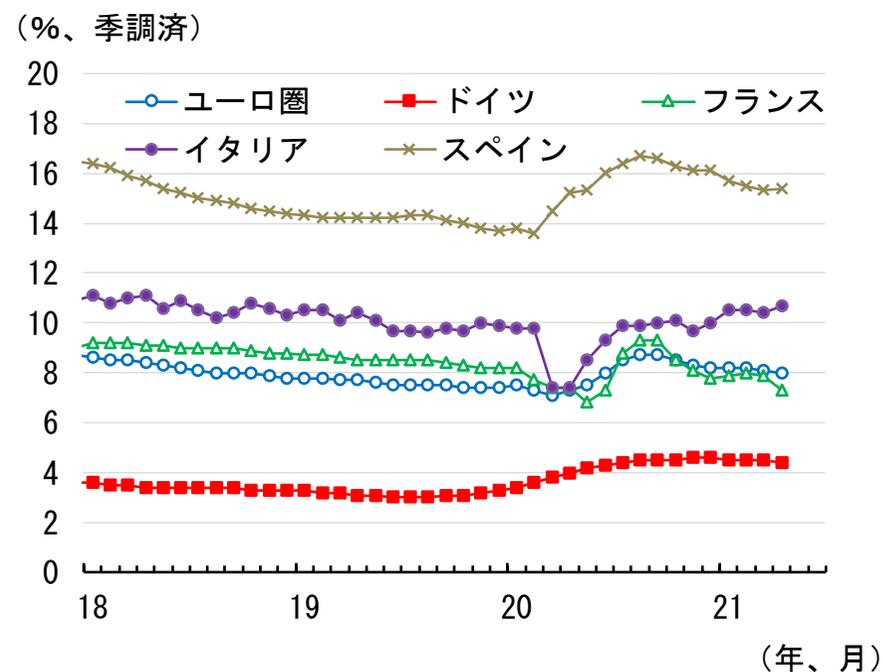
ユーロ圏の4月の雇用統計では、失業率が8.0%と2ヶ月連続で低下、失業者数が前月比13.4万人減と8ヶ月連続で減少した。主要国別に失業率を見ると、ドイツやフランスの失業率は緩やかに低下している半面で、イタリアとスペインはわずかに上昇している。

失業率と失業者数



(出所)ユーロスタット

主要国別失業率

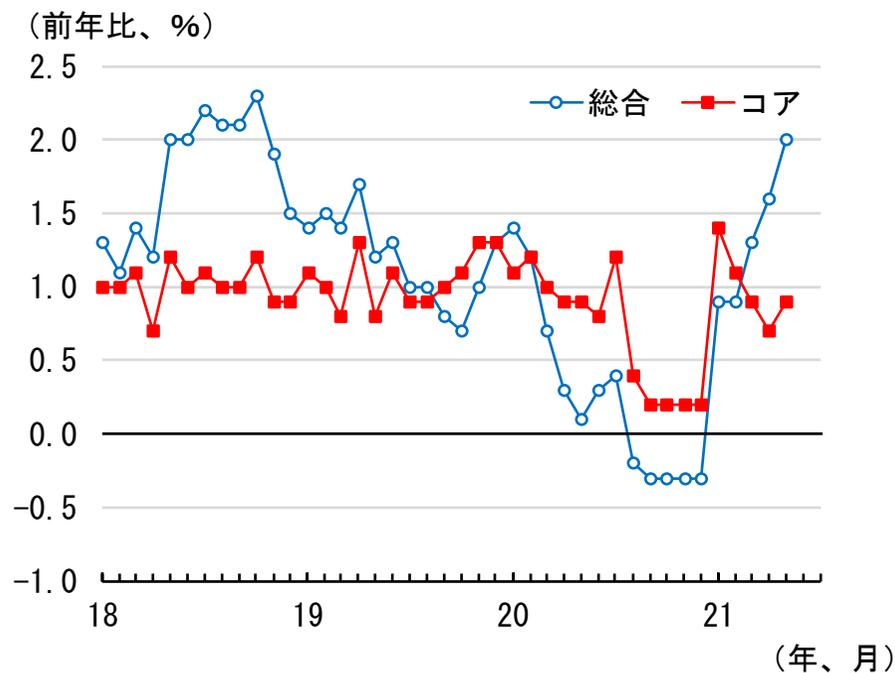


(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑤ 物価はインフレが加速している

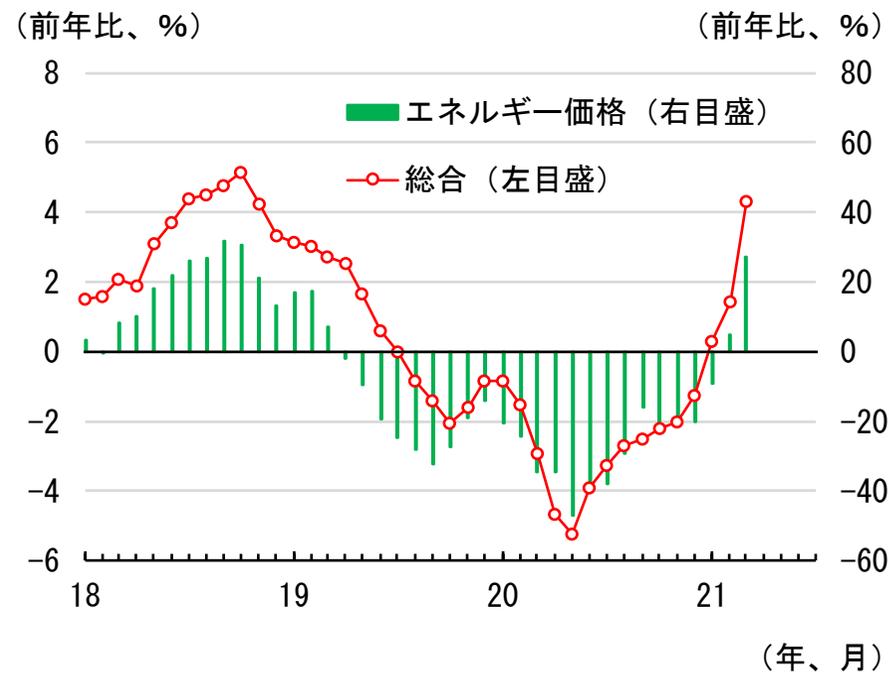
ユーロ圏の5月の消費者物価(速報値)は総合指数が前年比+2.0%と伸び率を高めた。ドイツで減税措置が終了したことやエネルギー価格の上昇が、物価を押し上げた。先行指標になる生産者物価は3月時点で前年比+4.3%と、上昇幅の拡大が続いている。

消費者物価



(出所)ユーロスタット

生産者物価



(出所)ユーロスタット

ユーロ圏景気概況⑥ ECBは既往の金融緩和パッケージを維持

欧州中央銀行(ECB)は4月22日の政策理事会で既往の金融緩和パッケージを維持。ラガルド総裁は会見で、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う行動制限の強化を受けて1-3月期の実質GDPが再びマイナスになったものの、行動制限の緩和を受けて4-6月期は再びプラスになるという見通しを示した(次回理事会は6月10日)。

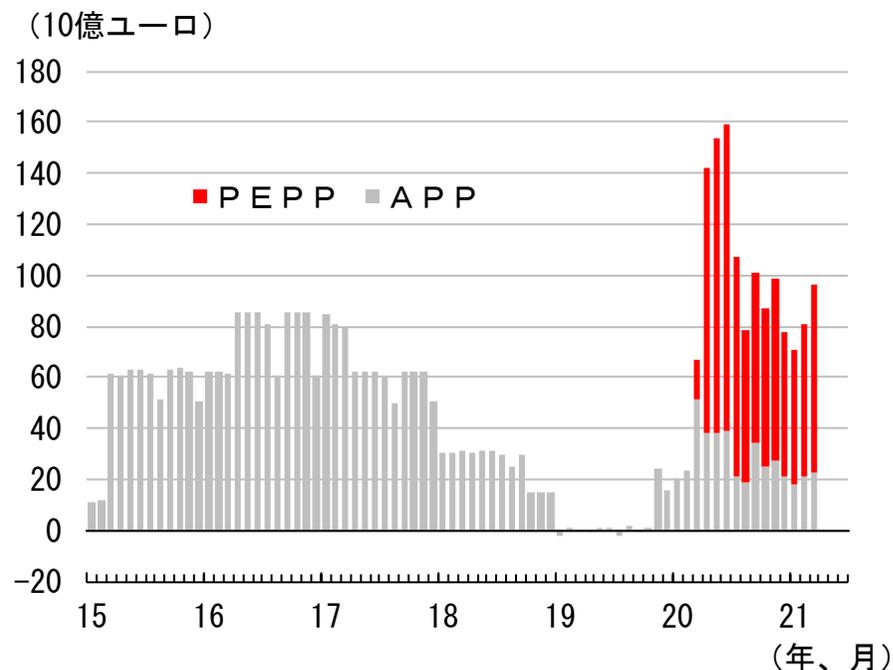
ECBの金融緩和パッケージ

ECBの2020年12月理事会での決定の概要

政策金利の据え置き	主要政策金利を既往の年0.00%に、また貸出金利を年0.25%に、預金金利を年-0.50%にそれぞれ据え置き。
資産購入策の強化	危機対応策であるパンデミック緊急対応プログラム(PEPP)での資産購入額を5,000億ユーロ増額して総額1兆8,500億ユーロに拡大。また期間を9ヶ月延ばして22年3月まで延長。再投資の期間も少なくとも23年末まで1年延長。 既往の資産購入プログラム(APP)は月額200億ユーロでの購入をオープンエンド型で継続。
資金供給策の強化	危機対応策であるパンデミック緊急リファイナンスオペ(PETLRO)を21年に4回追加 預金金利(現在▲0.50%)をさらに0.50%ポイント割り引いた水準(現状▲1.00%)で行う期間3年の資金供給策(TLTRO3)は22年6月まで期間延長。

(出所)欧州中央銀行(ECB)

資産購入の推移

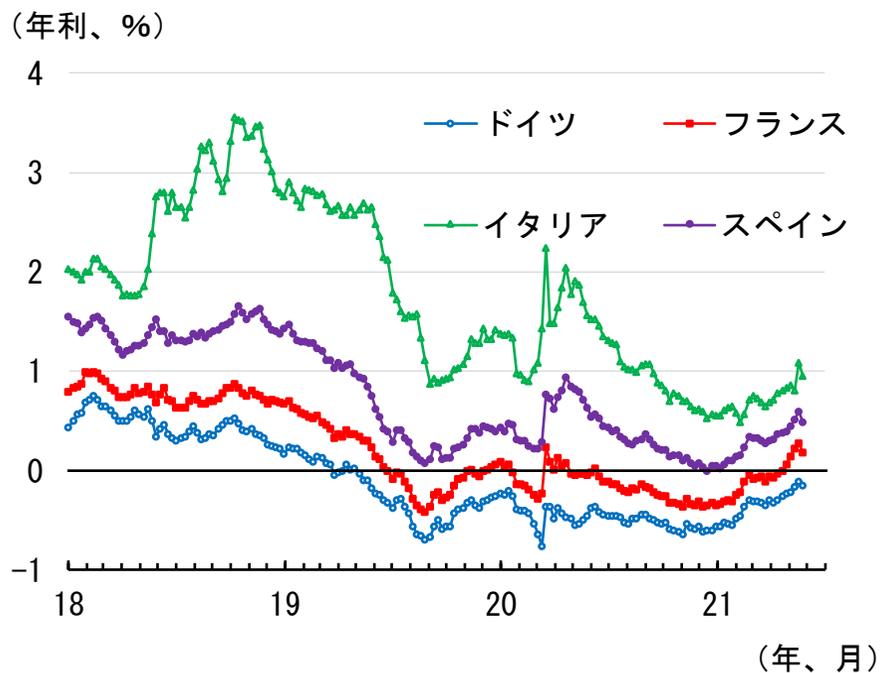


(出所)ECB

ユーロ圏景気概況⑦ 金利は横ばい、株価は上昇

5月のユーロ圏の長期金利は横ばいとなった。月前半は景気回復への期待から金利が上昇したが、月後半はラガルド ECB総裁のハト派発言を受けて低下した。一方で、株価(Eurostoxx50)は上昇した。行動制限の緩和に伴う経済活動の正常化とECBによる金融緩和の継続に対する期待が相場の上昇をけん引した。

長期金利



(出所) ECB

株価(Eurostoxx50)



(出所) STOXX

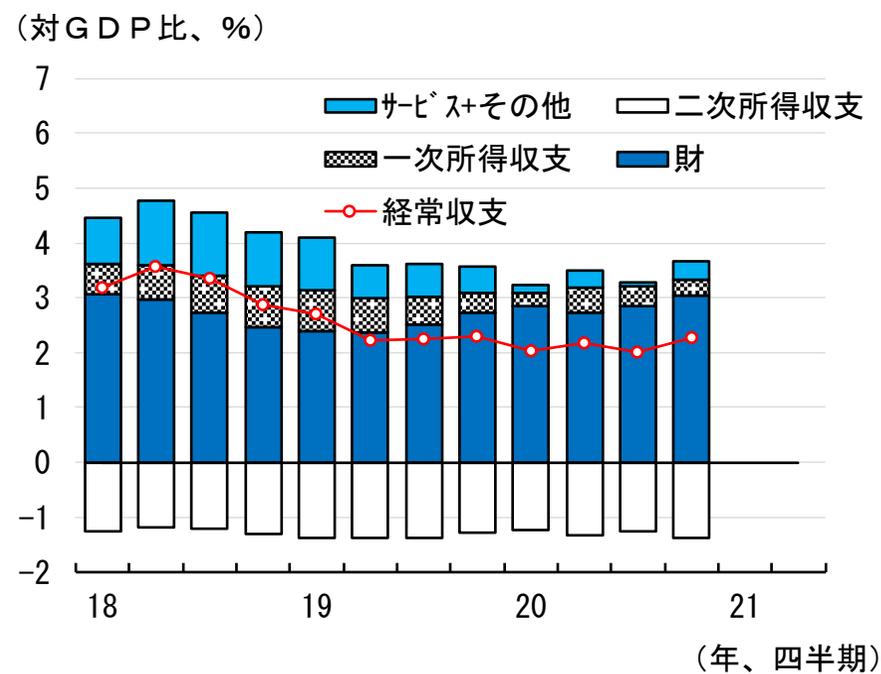
ユーロ圏景気概況⑧ 対ドル・対円ともにユーロ高

5月のユーロ相場は対ドル・対円ともにユーロ高が進んだ。ワクチン接種の進展に伴う経済活動の正常化への期待からユーロが積極的に買われた。国際収支をみると、輸出企業による実需買い圧力は堅調である。

ユーロ相場



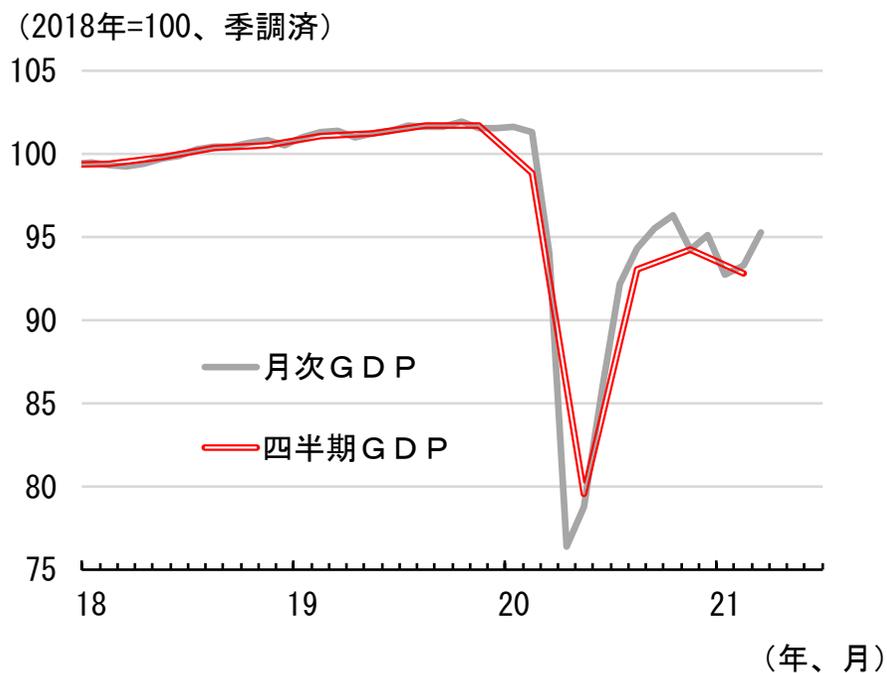
国際収支



英国景気概況① 景気は悪化している

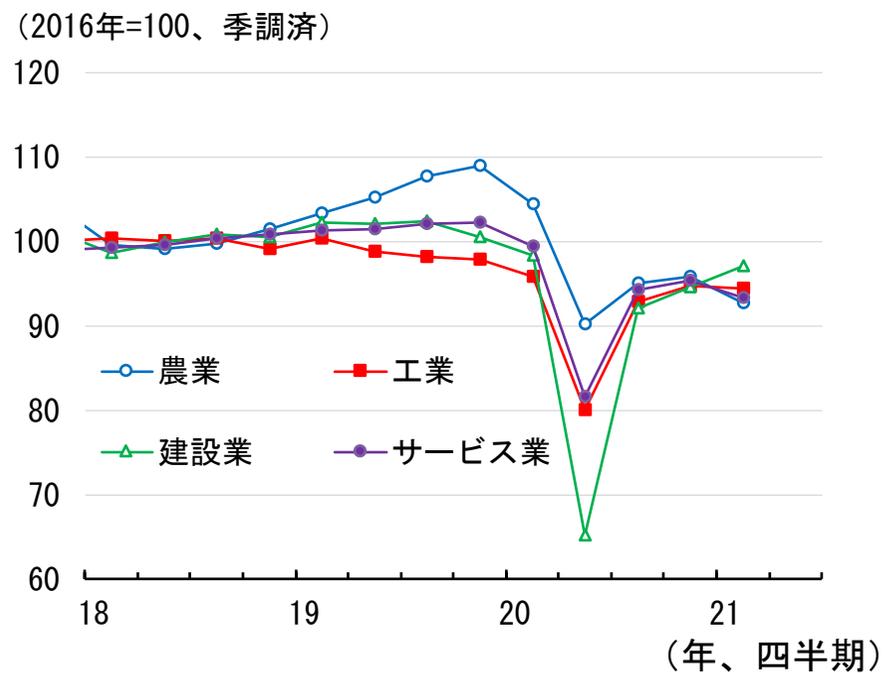
英国の2021年1-3月期の実質GDP(速報値)は前期比-1.5%と、20年1-3月期以来となるマイナス成長になった。需要項目別には、行動制限の強化を受けて内需が悪化し、景気の下押し要因となった。粗付加価値(GVA)を産業別にみると、建設業が回復した反面で、工業はほぼ横ばいとなり、サービス業と農業は悪化した。

実質GDP



(出所)英国立統計局(ONS)

実質GVA(粗付加価値)

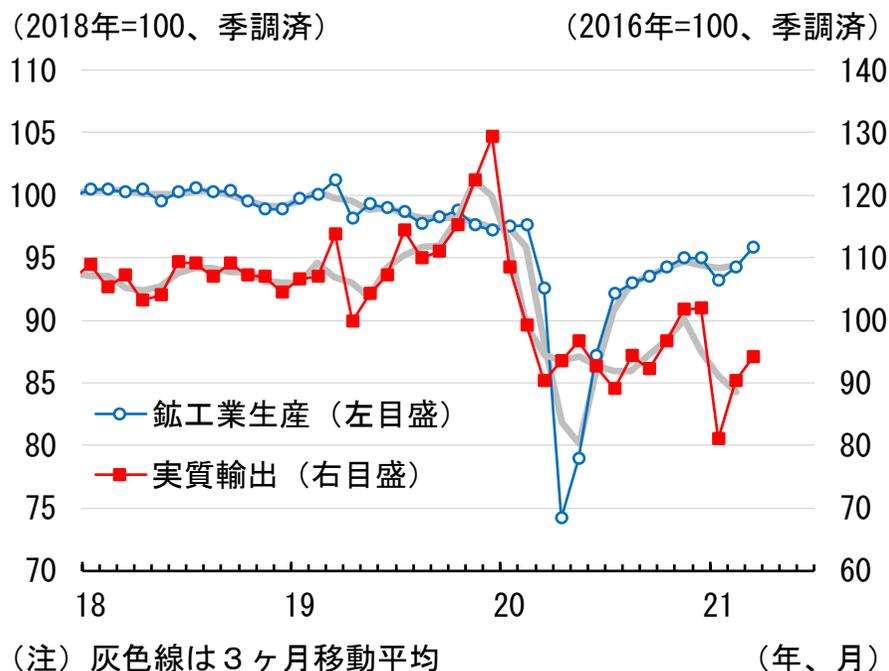


(出所)ONS

英国景気概況② 生産は横ばい

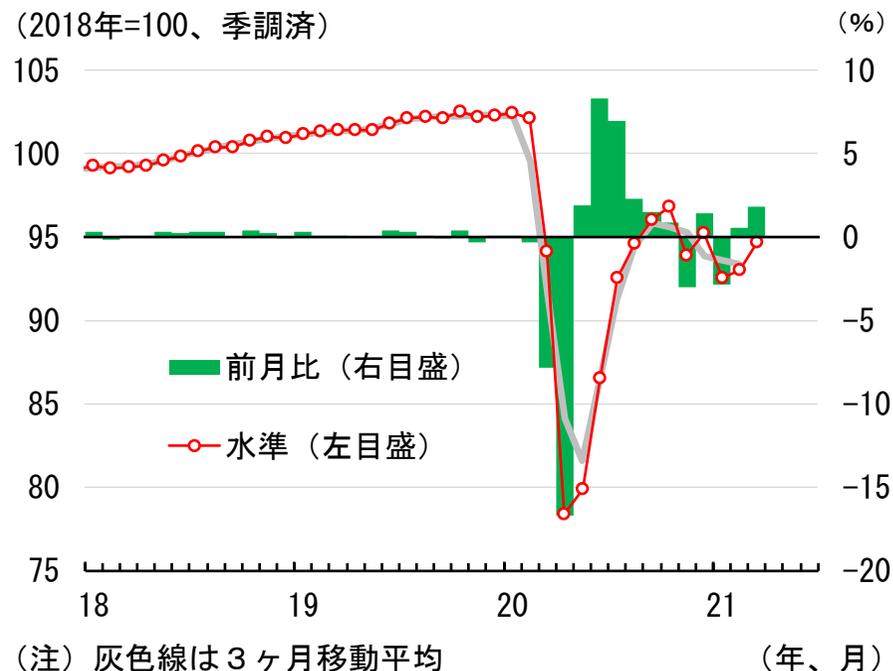
英国の3月の鉱工業生産は前月比+1.7%と増加が続いたが、均した動きは横ばいとなっている。また同月の実質輸出も同+4.0%と前月(同+11.6%)から増勢の鈍化が続き、均した動きも減少基調で推移している。他方で、3月のサービス生産は前月比+1.8%と増加が続いたが、均した動きは減少基調で推移している

生産と輸出



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

サービス業生産



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

英国景気概況③ 消費は回復している

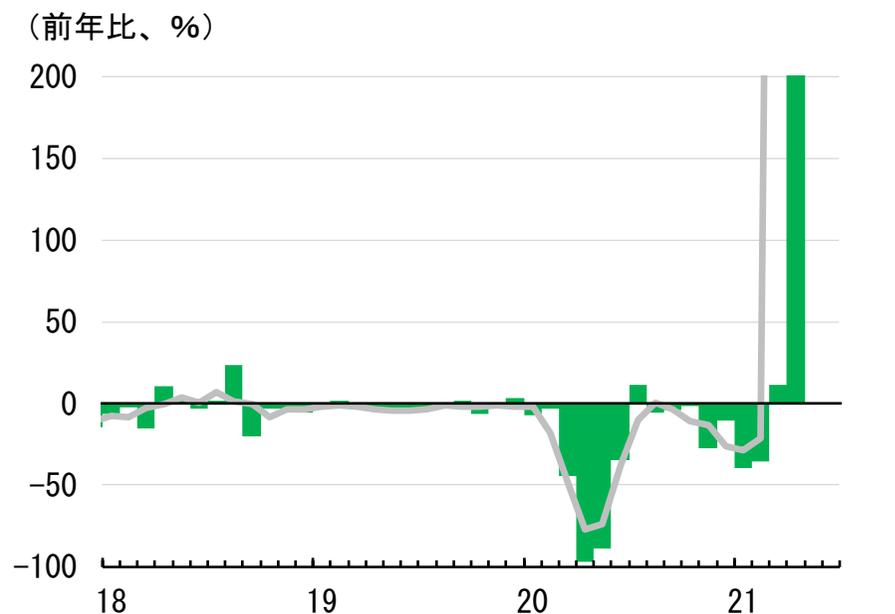
英国の4月の小売数量(除く石油)は前月比+9.0%と3ヶ月連続で増加し、均した動きも増加基調に転じた。また同月の新車販売台数(乗用車)は14.2万台だったが、前年同月の歴史的な少なさ(4,321台)の反動から前年比+3,176.6%と記録的な増加率になった。行動制限の緩和を受けて消費の回復が急ピッチで進んでいる。

小売数量(除く石油)



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

新車販売台数(乗用車)

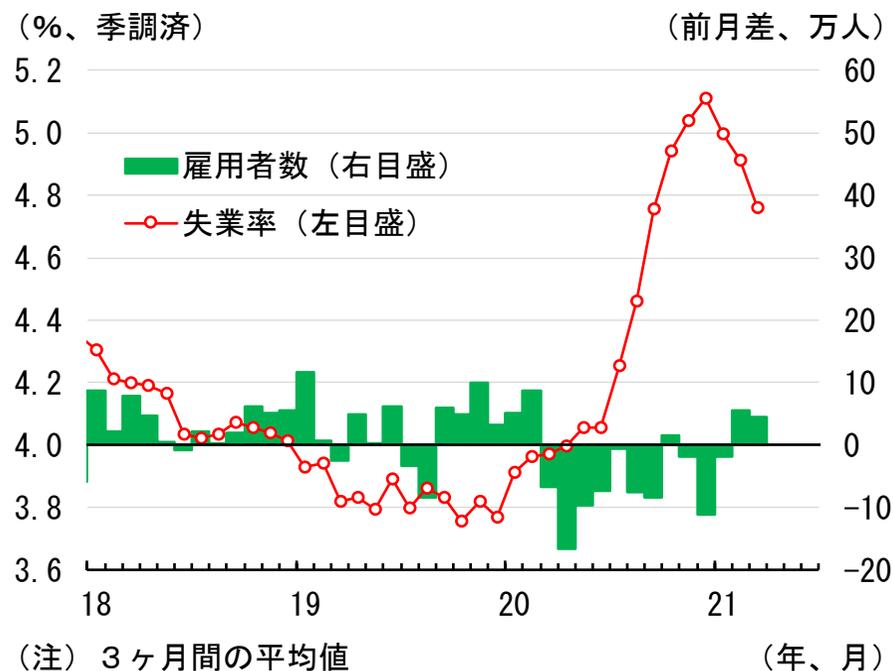


(注) 灰色線は3ヶ月移動平均
(出所)ONS

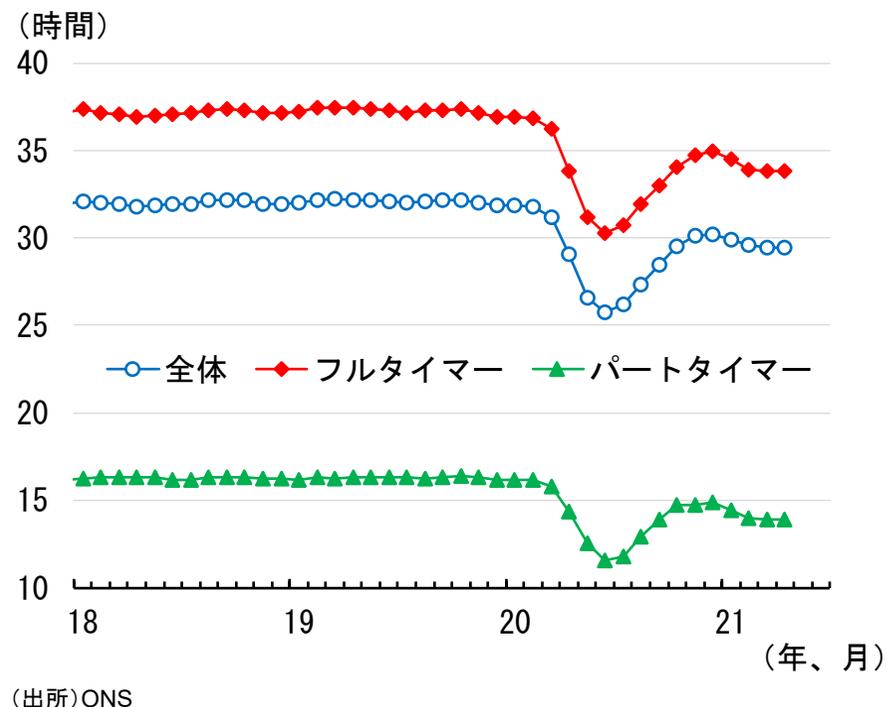
英国景気概況④ 雇用は改善している

英国の3月の雇用統計(3ヶ月後方移動平均)では、失業率は4.8%と3ヶ月連続で低下し、雇用者数も前月比+4.6万人と2ヶ月連続で増加した。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う行動制限が春に緩和されることを見越して雇用は改善している模様。一方で、平均労働時間は29.4時間と2ヶ月連続で横ばいとなった。

雇用統計



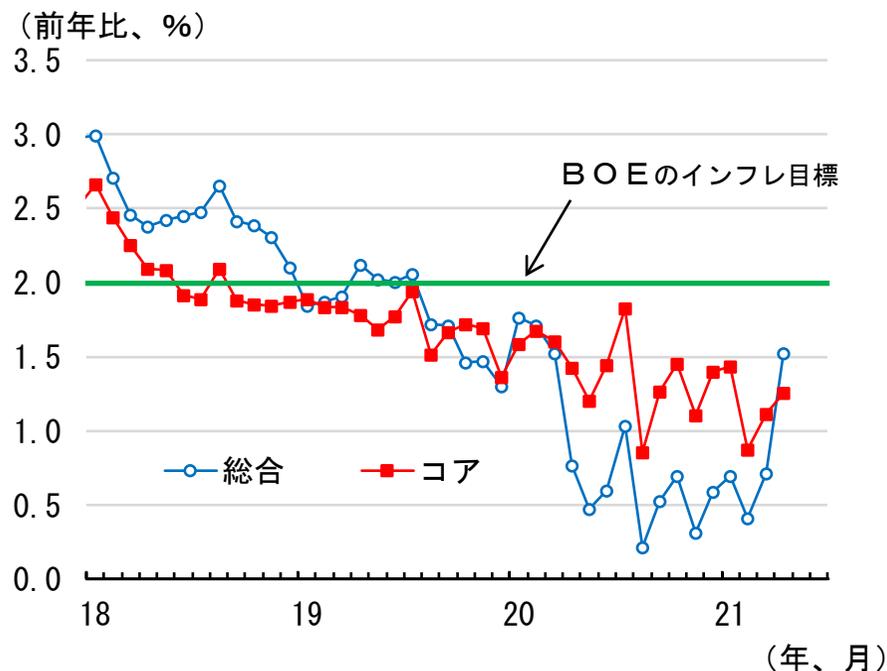
平均労働時間



英国景気概況⑤ 物価はインフレが加速している

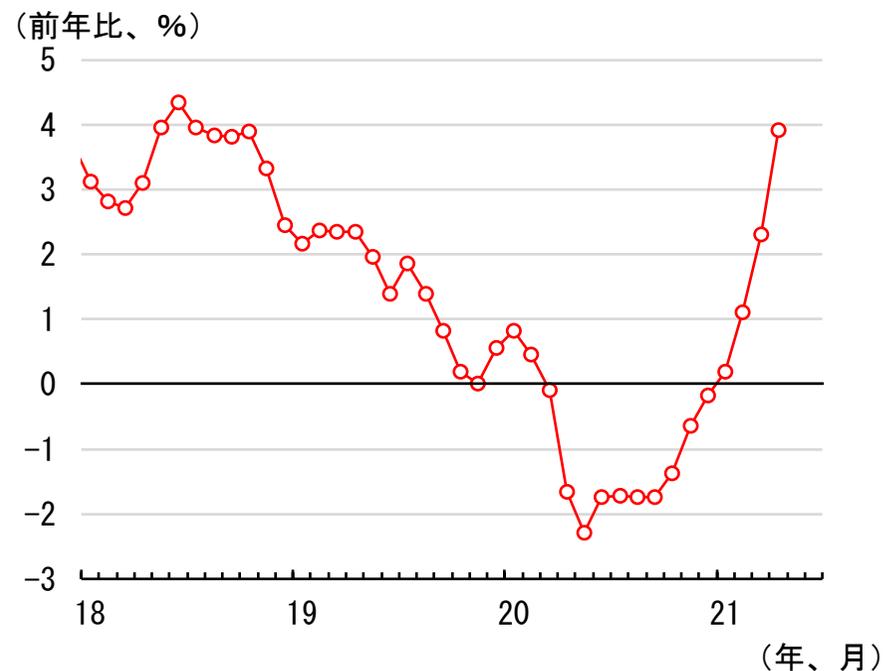
英国の4月の消費者物価は総合指数が前年比+1.5%と前月(同+0.7%)から伸び率が大幅に上昇、一方でコア指数の伸びは同+1.3%と小幅な加速だった。先行指標となる同月の生産者物価は同+3.9%と3ヶ月連続でプラス幅が拡大しており、英国ではインフレの加速が続く見通し。

消費者物価



(出所)ONS

生産者物価(投入価格、除く関税)

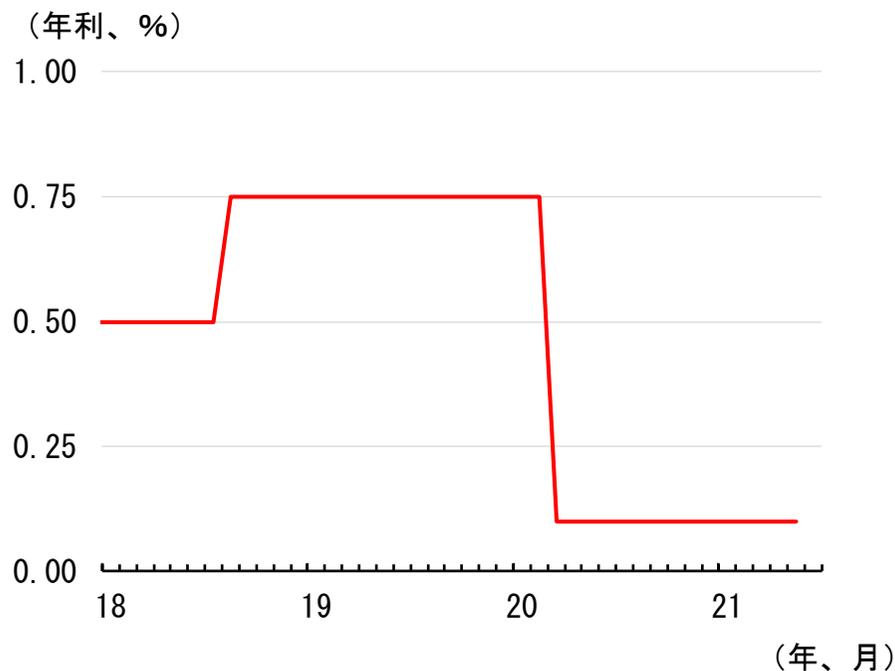


(出所)ONS

英国景気概況⑥ BOEは既往の金融緩和パッケージを維持

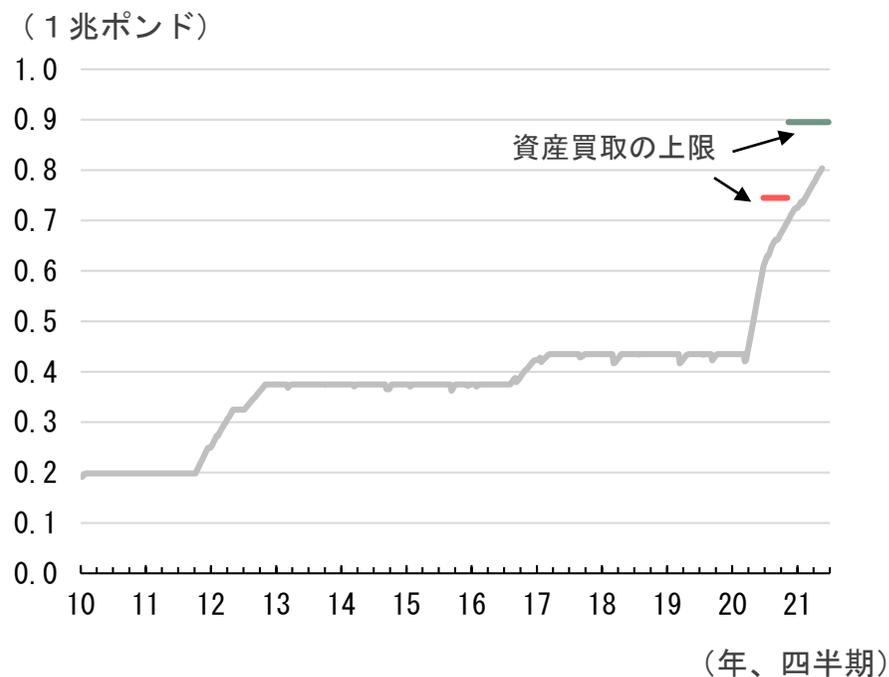
英中銀(BOE)は5月6日の金融政策委員会(MPC)で既往の金融緩和パッケージを維持し、政策金利(バンクレート)を0.10%に、資産買取プログラムの規模を8,950億ポンドにそれぞれ据え置いた。同時にBOEは、今後の景気回復テンポが速いと想定されることから、今月以降、資産買取のペースを鈍化させると発表した(次回MPCは6月24日)。

政策金利(バンクレート)



(出所)イングランド銀行(BOE)

英中銀の国債保有高

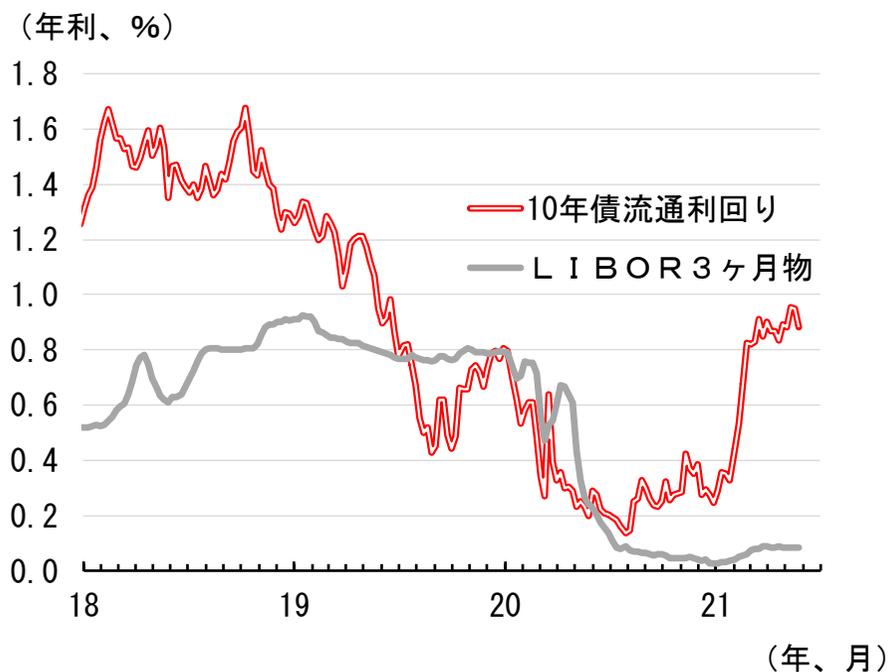


(出所)BOE

英国景気概況⑦ 長期金利は低下、株価は上昇

5月の英国の長期金利は低下した。月上旬はBOEのテーパリング発言を受けて金利が上昇する局面もあったが、月下旬は世界的な金利低下の流れを受けて英国の金利も低下した。一方で株価は上昇した。上旬には景気回復期待の高まりを受けて銀行株などが買われ相場は堅調だったが、下旬には鉱業株が売られて軟化した。

金利



(出所)BOE

株価(FT100指数)

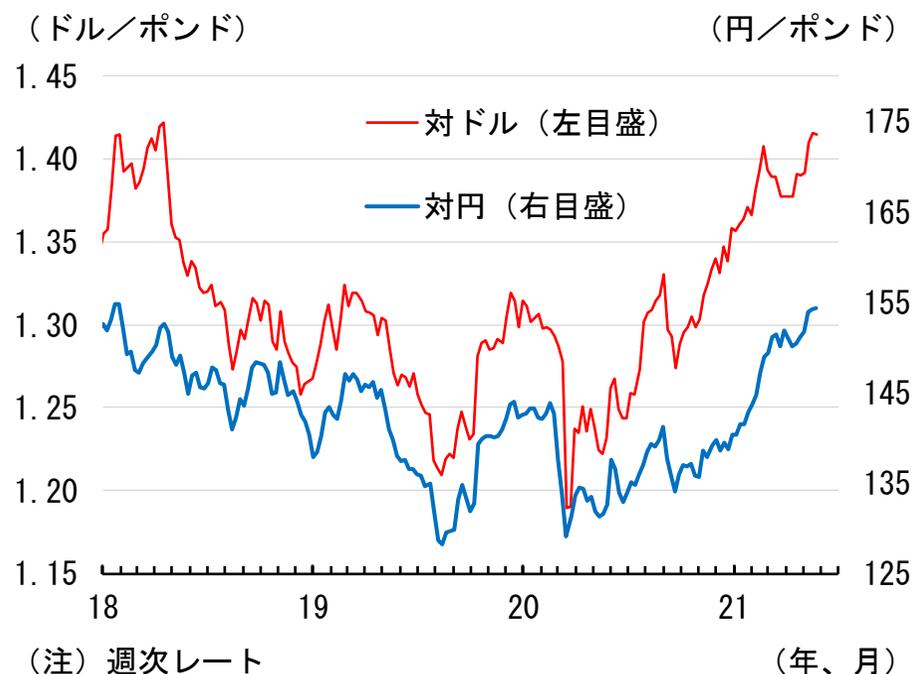


(出所)BOE

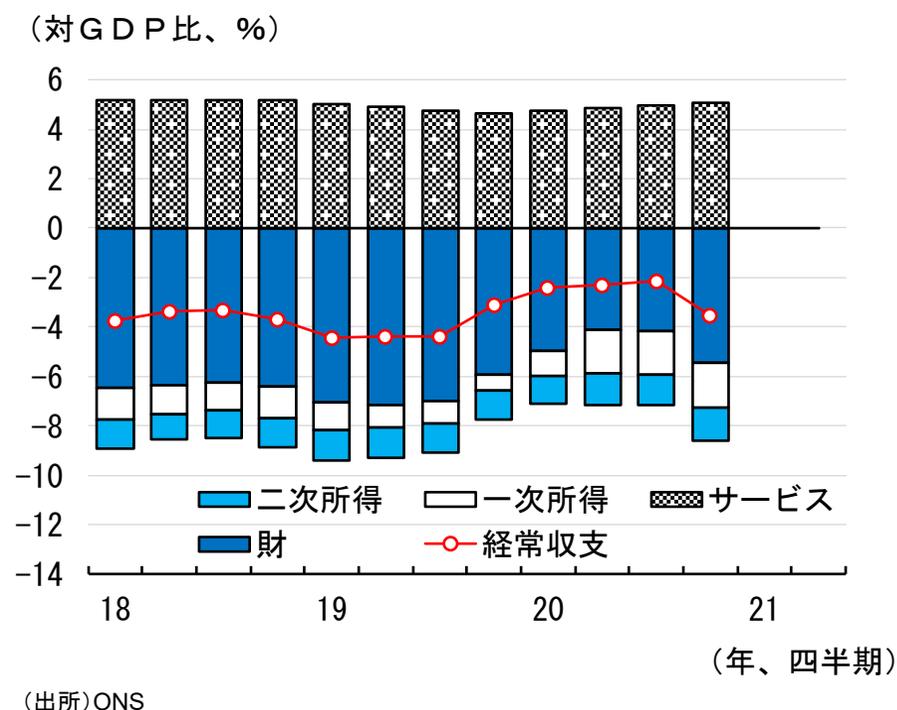
英国景気概況⑧ 対ドル・対円でポンド高

5月のポンド相場は対ドル・対円で上昇した。経済活動正常化への期待が高まる一方、米国の金融緩和長期化観測も高まり、ポンド相場を押し上げた。英国の経常収支は足元で赤字を拡大させつつあるが、実需以上に投機的需要がけん引役となるかたちでポンド高基調が定着している。

ポンド相場



国際収支



ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 土田陽介 TEL:03-6733-1628 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒108-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください